

保冷剤技術 医療分野へ

松阪 三重化学工業



東海ブルーZ

生菓子や生鮮食品に添えるジェル状保冷剤を製造する三重化学工業(三重県松阪市)が、医療現場の声を生かした医療機器の開発に取り組んでいる。熱中症患者の体を冷やす処置に使う保冷剤を、首や脇など体の部位に添う形にするなど、現場での使いやすさを重視。ジェルを使った医療機器の「オンリーワン」企業を目指す。

洗濯のりを製造する会社として創業。自社のノウハウを生かし、1966年に保冷剤、83年には

温熱剤の製造を始めた。固く凍らないゲル状の水枕など開発した技術を生かすため、次に注目したのが医療分野だった。2005年に医療機器の製造、販売の許可を取った。熱中症患者の体を冷やす処置に使う保冷剤を、首や脇など体の部位に添う形にするなど、現場での使いやすさを重視。ジェルを使った医療機器の「オンリーワン」企業を目指す。

15年に販売した三日月形の冷却剤「くるっとクール」は、熱中症患者の



①三日月形の冷却剤「くるっとクール」とタオルウオーマーで温める「バリアホット」を手にする山川大輔社長②医療分野の「メディアン」で開発されたバリアホットと自社ブランド「ラルル」で開発したフェムテック商品＝いずれも松阪市大口町の三重化学工業で



メモ
1966年に三重県久居市(現在の津市)で創業し、62年に松阪市へ移転した。洗濯のりの原料や製造ノウハウを生かし、66年から保冷剤や水枕、70年には作業用手袋の製造を始める。従業員数60人(2024年11月末現在)。フェムテックの3商品やバリアホットなど医療機器はECサイトから購入できる。

看護部の「保冷剤の使い勝手が悪い」という声が誕生のきっかけだった。熱を下げるために首や脇、太ももにフィットする形状やジェルの重さなど看護部の意見を取り入れた。保冷剤を包む布ケースには、自社が手がける作業用手袋の技術も生かすことができた。

17年には医療機器に特化したブランド「メディアン」を立ち上げ、新たに整形外科と連携して開発した指の患部を冷やす保冷剤は、今は学校の保健室などで生徒らが突き指にもつながっている。整った場合に活用されている。熱中症患者の体を冷やす保冷剤も改良し、「ホットパック」から8年ぶりに自社ブランド「ラルル」を誕生させた。女性従業員の声を聞き、生理や産後などの悩みを技術で解決する「フェムテック」事業に参入。背中や首、肩など体の部位に合わせた3種の温冷兼用の自社商品を開発した。

山川大輔社長(47)は「これまでは保冷剤の強みを生かした横展開だった。今後はクリエイションできる仲間と自由な発想でワクワクする新しいものづくりをやりたい」と熱く語った。

【下村恵美】

あしち

あしち

あしち

あしち